

おやさと中葉



特徴

- 耐暑性・耐寒性の強い周年栽培向きの中葉品種。
- 葉は細く濃緑、切れ込み深く茎葉ともに柔らかい。
- 分枝の発生が非常に良いので摘み取り出荷に最適。
- 葉型の乱れなく、揃いが良い。

■栽培適期表

(近畿標準)

栽培型	月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
無加温ハウス									●	—	■	■	■	■	■	■
無加温ハウス +トンネル										●	—	■	■	■	■	■
トンネル	●	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
露地			●	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
雨除けハウス									●	—	■	■	■	■	■	■
露地									●	—	■	■	■	■	■	■

記号説明 ●:播種 —:栽培期間 ■:収穫期間 ◡:ハウス栽培

春菊栽培の目安

- 種子必要量：5～8L / 10a あたり
 - 栽植密度：畝幅 100～180cm 条数 5～7 株間 15～20cm
 - 発芽適温：15～20℃
 - 生育適温：15～25℃
- (寒さには強く本葉が展開している場合は0℃以下でも越冬は可能)

栽培方法

<摘み取り種>

摘み取り種の場合は1作にて3回以上の収穫が可能です。直播・育苗いずれの栽培も可能です。1回目の収穫時に地際から4～5枚の葉を残して収穫し、その際に側枝の伸びを促す

ために追肥を施します。追肥は、10㎡あたり窒素成分で30～40gを目安して下さい。

その後は側枝が20～25cm程度伸びた段階で株元の葉を2枚残して切り(手で摘み取りでも可)、随時収穫して下さい。

べト病は雨が多く涼しい気候で発生しやすく、密植により風通しが悪いと発生を助長します。毎年発生する際は条間、株間を広めにとるなど風通しが良くなるようにして下さい。

<多収のポイント>

側枝の伸びを促し、1作で何回収穫できるかがポイントです。株の葉色を見ながら葉が黄化するなど肥切れを生じないように早めの追肥と灌水を行って下さい。特に低温期には肥料の効きは遅くなります。

収穫前株全体



収穫1回目(主枝)



収穫後株写真



側枝のカット



収穫2回目

